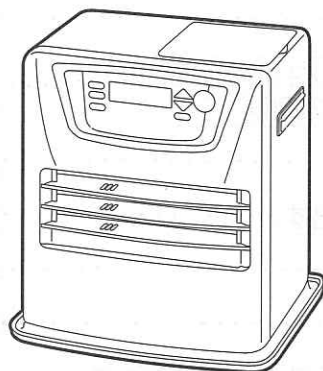
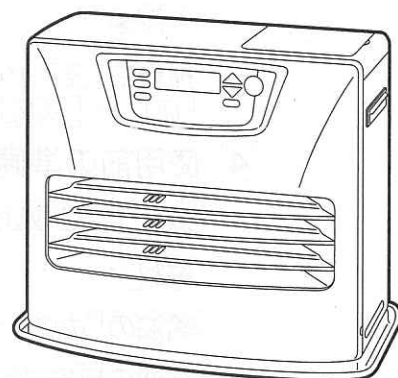
型式 LC-L36A（エル シー エル エー）
型式 LC-L43A（エル シー エル エー）
型式 LC-L53A（エル シー エル エー）

石油ファンヒーター
強制通気形開放式石油ストーブ

LC-L36A
LC-L43A

LC-L53A

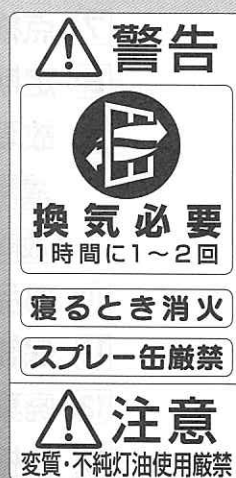
取扱説明書

このたびは本機をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。

●ご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく使用してください。
この「取扱説明書」は、「保証書」と共に大切に保管しておいてください。

●同梱の「アフターサービス登録カード」は必ずご投函ください。

株式会社トヨトミ

8150001921

目次

1 安全のために必ずお守りください……1～4
2 使用する場所……4
3 各部のなまえ……5～7
- 外観図……5
- 操作部・表示部のなまえと使いかた、「点灯」・「点滅」の意味……6～7

4 使用前の準備……8～13
- ストーブを取り出す……8
- 燃料……8～9
- 給油のしかた……9～10
- 給油の目安・給油延長運転のしかた……11
- 点火前の準備と確認……12
- 現在時刻の設定のしかた……13

5 使いかた……14～20
- 点火のしかた……14
- 炎の状態……15
- 室温の調節のしかた……15～16
- エコ運転のしかた……16～17
- タイマー運転のしかた……17～18
- 消火のしかた……19
- 消火後再点火するときの注意……19
- 消し忘れ消火装置の使いかた……19
- クリーニング燃焼表示……20
- 換気表示……20
- チャイルドロックのしかた……20

6 安全装置……21
7 点検・手入れ……22～24
8 定期点検……24
9 故障・異常の見分けかたと処置方法……25～26
- 異常のお知らせ（デジタル表示の見かた）……25
- 故障かなと思ったときに……26

10 部品交換のしかた……27
11 保管（長期間使用しない場合）……27
12 廃棄するとき……27
13 仕様……28
14 アフターサービス……29・裏表紙

1 安全のために必ずお守りください

●お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、本機を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。
●ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

表示	内容
⚠危険(DANGER)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠警告(WARNING)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意(CAUTION)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

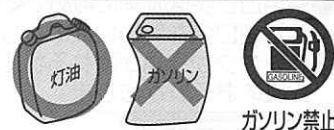
絵表示	内容
	この絵表示は、「禁止」されている内容です。
	この絵表示は、「注意」していただく内容です。
	この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

●説明文中の**「お願い」**事項は、本機を誤りなく正しくお使いいただくための内容が記載されています。

⚠危険(DANGER)

★ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
少量の混入でも、火災の原因になります。

ガソリン禁止

⚠警告(WARNING)

★スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、ストーブの前や温風のあたる所に放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。

禁止

★換気必要

●換気せずに使用しつづけないでください。
酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。
また、乳幼児や呼吸器疾患などのかたは、体調不良になるおそれがあります。
●使用中は必ず1時間に1～2回(1～2分)換気して、新鮮な空気を補給してください。
●換気する時は、換気扇を使用したり(換気扇を使用する場合は、離れた位置の窓を開けないと充分な換気ができない場合があります。)2カ所以上の(風の出入りのある)開口部を設けると効率よく換気できます。
窓の凍結や、地下室などで換気が充分におこなえない場所では、使用しないでください。

換気

★温風吹出口(ルーバー)をふさがない

ストーブガードなどの囲いに干し物を掛けたり、衣類、紙などで温風吹出口(ルーバー)や燃焼空気取入口(給気フィルター)や温風空気取入口をふさがないでください。
衣類、紙などでふさぐと、異常燃焼や火災や故障の原因になります。

禁止

★衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が乾燥すると、ストーブの熱気でゆれて落下して火がつき、火災の原因になります。

禁止

★寝るとき消火

寝るときや外出するときは、必ず火が消えていることを確認してください。
予想しない事故が発生するおそれがあります。

消火

★可燃性ガス使用厳禁

ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの(ガソリン、ベンジン、シンナー)や、スプレーを使用しないでください。火災や故障の原因になります。

使用禁止

1 安全のために必ずお守りください

⚠注意（CAUTION）

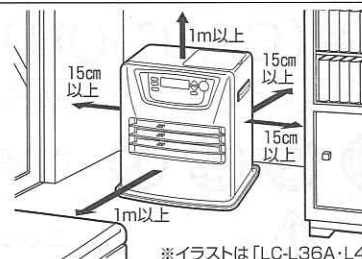
★カーテン、寝具など、可燃物近接禁止

●カーテン、布団、毛布などや燃えやすいもののそばでは使用しないでください。火災の原因になります。
ストーブの前に可燃物を置かないでください。
ストーブの熱気で着火して、火災のおそれがあります。
●可燃物との離隔距離については、下記 ★可燃物（木壁、合板、ふすまなど）との距離を離す の記載内容を参照してください。

★可燃物（木壁、合板、ふすまなど）との距離を離す

※イラストは「LC-L36A・L43A」です。

距離

●ストーブから可燃物との距離は、右図の指定以上の距離を保つようにしてください。
●ストーブ上方や前方の可燃物などとの距離は必ず１m以上離してください。
●上方の棚などからの落下物がないようにしてください。
●カーテンなどが風でゆらいでもストーブにふれないようにしてください。
●家具等からは充分な距離を離してください。
熱で変形や変色、自然発火することがあります。

★給油時消火

給油は必ず消火していることを確認して、ストーブの温度が充分下がってから、他に火の気のない所でおこなってください。
火災のおそれがあります。

★油漏れ確認

●給油口口金は確実に締めてください。給油口口金を下にして、油漏れがないことを確かめてください。
給油口口金を斜めに締めたりすると、簡単に給油口口金がはずれて、火災のおそれがあります。
●油タンクから油が漏れる状態では絶対に使用しないでください。
火災のおそれがあります。

★ほこりの除去

燃焼空気取入口（給気フィルター）や温風空気取入口は、週1回以上必ず掃除してください。
ごみ、ほこりなどで燃焼空気取入口（給気フィルター）や温風空気取入口がつまると、異常燃焼のおそれがあります。

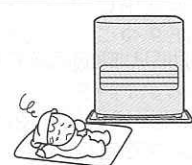
★異常時使用禁止

におい、すすの発生、炎の状態など異常燃焼を起こしたときは、使用しないでください。
緊急の場合でもあわてずに消火器で消火してください。

★温風に直接あたらない

温風に直接長時間あたったり、ストーブの前に長時間い続けないでください。
低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。
また、温風を直接吸い込まないでください。
気分が悪くなることがあります。

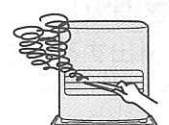
★移動・運搬するときの注意

指示

●ストーブを移動するときは、必ず消火し、ストーブの温度が充分下がってから油タンクを取り出し、傾けないように静かに移動してください。
油が漏れたり、火災になるおそれがあります。
●修理・引越しなどでストーブを運搬されるときは、油タンク、油受けざらの灯油を必ず抜いてください。
運搬の途中に灯油がこぼれ、周囲を汚すおそれがあります。

★高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部、温風吹出口（ルーバー）に手などふれないでください。
やけどのおそれがあります。

★指や異物を入れない

温風吹出口（ルーバー）や燃焼空気取入口（給気フィルター）や温風空気取入口やストーブ内部に指や可燃物・針金などの異物を入れないでください。
けがや火災のおそれがあります。

★分解修理・改造の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
ストーブは絶対に改造して使用しないでください。
不完全な修理や改造は危険です。

⚠注意（CAUTION）

★保管時にしていただくこと

長期間使用しないとき、または保管するときは、必ず灯油を抜いて、電源プラグをコンセントから抜いてください。
傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。
火災のおそれがあります。

★電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、傷付けたり束ねたり、物をのせたり加工しないでください。
また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
電源コードが破損し、火災や感電の原因になります。

★長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因となります。

★電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
（また、傷んだ電源プラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。）
火災の原因になります。
濡れた手での抜き差しはしないでください。
感電の原因になります。

★電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこり（及び金属物）を除去してください。
（ほこりや異物がたまると湿気などで絶縁不良になり）火災の原因になります。

★お子様やお年寄りのご使用に注意

お子様やお年寄り、体のご不自由なかたがお使いになる場合は、ストーブの取扱い、部屋の換気、高温部への接触によるやけど、低温やけどや脱水症状などについて周囲の人が充分に注意してください。

★腰をかけたり物をのせない

ストーブの上にのったり、腰をかけたりしないでください。ストーブの故障や、やけどのおそれがあります。
ストーブの上に花びんや、水を入れたものなどを置かないでください。
水がかかると漏電や故障のおそれがあります。

★廃棄するとき

ストーブを廃棄処分するときは、必ず油タンク、油受けざら内の灯油を抜き取ってください。
（「7 点検・手入れ」の 油タンク、油受けざらの掃除 参照）
灯油が入ったまま廃棄するとリサイクルの際、予想しない事故が発生するおそれがあります。

★次の場所では使用しない

使用禁止

火災や予想しない事故や故障の原因になります。

水平でない場所、不安定な場所

●傾斜した場所や振動の激しい所では、使用しないでください。
　対震自動消火装置が誤作動することがあります。
●しっかりしたじょうぶな場所で使用してください。
●毛足の長いじゅうたんの上では使用しないでください。
●移動車両の中や、不安定な台上で使用しないでください。
　転落したり、火災になるおそれがあります。

暖炉などストーブが囲われる場所

●暖炉や押入れに入れての使用など、特殊な使いかたをしないでください。
　火災の原因になります。

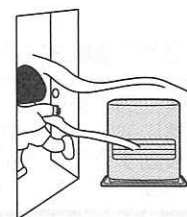
ほこりや湿気の多い場所

●粉類や繊維を取扱う場所や温室・養鶏場など塵やほこりの多い場所では使用しないでください。
　燃焼空気取入口（給気フィルター）や温風空気取入口が目づまり状態になり、異常燃焼や異常過熱を起こすおそれがあります。

温室・飼育室など人のいない場所

●使用環境の変化で、予想しない事故が発生するおそれがあります。

風のあたる場所、部屋の出入口、屋外

●風のあたる場所や屋外では使用しないでください。
　炎が出て危険です。
　掃除機の排気にも注意してください。
●部屋の出入口など人の通る場所、人がぶつかったりつまずく場所で使用すると、転倒して事故や火災が起きるおそれがあります。

不安定な物をのせた棚などの下

●落下物により火災が起きるおそれがあります。

可燃性ガスの発生する場所、またはたまる場所

●爆発や火災の原因になります。

1 安全のために必ずお守りください

⚠注意（CAUTION）

★次の場所では使用しない

火災や予想しない事故や故障の原因になります。

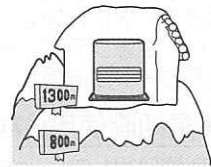
直射日光のあたる場所、温度の高い場所

●異常燃焼を起こすおそれがあります。
●油タンクの灯油があふれ出て火災のおそれがあります。

理・美容院、クリーニング店などスプレーや化学薬品を使う場所

●理・美容院、メッキ、塗装工場、電子部品組立工場、繊維関係工場などでは使用しないでください。
ストーブの故障や、腐食性ガスの発生により金属・鏡・ガラスなどを傷める原因となります。
●石油ファンヒーターで暖房する部屋ではシリコーンを配合した枝毛用コート液やヘアートリートメント（枝毛用）は点火ミスや、途中消火など故障の原因になりますので使用しないでください。

高地（1300m以上の場所）

●酸素濃度が薄いので異常燃焼を起こすおそれがあります。
●燃焼に必要な酸素濃度が薄くなる高地（800～1300m）では高地調整が必要ですのでお買い求めの販売店までお問い合わせください。

お願い（NOTICE）

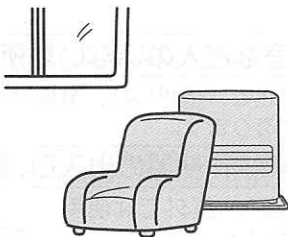
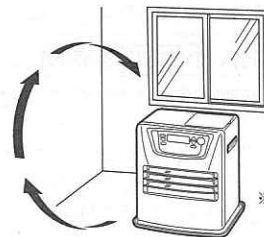
★シリコーン配合製品を使用しない

●石油ファンヒーターの故障の原因になることが注意表示がされているヘアケア商品等はシリコーンが配合されています。石油ファンヒーターと同時に使用しないでください。
●上記の注意表示がなくてもシリコーンが配合されている商品（化粧品類、衣類の防水剤・柔軟剤等、家具等のつや出し剤・保護剤等）も同時使用は控えてください。
●やむなくご使用になる際は石油ファンヒーターの運転を一時的に停止し、使用後は換気を充分におこなってシリコーン等の成分を屋外に排出してから運転を再開してください。

★灯油の廃棄

灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

2 使用する場所

★効果的に使用するために

●温風の循環を妨げるものがない場所に設置してください。

※イラストは「LC-L36A・L43A」です。

●外気に接する窓の下や壁側に設置すると効果的です。

●熱に弱いカーペットや床の上で長時間使用すると、変色したり、そり返ることがあります。
熱に強いマットなどを敷いてください。
●移動するときは引きずらないでください。
床面、畳、カーペットに傷を付けたり、本体底面の塗装がはがれて錆の原因になるおそれがあります。

3 各部のなまえ

外観図

前面

LC-L36A
LC-L43A

タンクふた
取っ手
油タンク
（気密油タンク，こぼれま栓付）
操作部・表示部
フロントパネル
手掛け
温風吹出口
（ルーバー）
給油口口金
油受け
燃焼確認窓
給油口
置台
油受けざら
対震自動消火装置
気密油タンクの
給油時消火装置

LC-L53A

取っ手
タンクふた
油タンク
（気密油タンク，こぼれま栓付）
操作部・表示部
フロントパネル
手掛け
燃焼確認窓
給油口口金
油受け
温風吹出口
（ルーバー）
給油口
置台
油受けざら
対震自動消火装置
気密油タンクの
給油時消火装置

背面

LC-L36A
LC-L43A

温風空気取入口
ルームサーミスタ
（室内温度検知部）
対流用ファン
燃焼空気取入口
（給気フィルター）
電源プラグ
電源コード

LC-L53A

温風空気取入口
（ファンフィルター）
対流用ファン
ルームサーミスタ
（室内温度検知部）
燃焼空気取入口
（給気フィルター）
電源コード
電源プラグ

3 各部のなまえ

操作部・表示部のなまえと使いかた、「点灯」・「点滅」の意味

チャイルドロックボタン

チャイルドロックの設定・解除をおこないます。

「5 使いかた」の **チャイルドロックのしかた** 参照

エコボタン

エコ運転の設定・解除をおこないます。

「5 使いかた」の **エコ運転のしかた** 参照

運転スイッチ

運転の入・切をおこないます。

「5 使いかた」の **点火のしかた**、**タイマー運転のしかた**、**消火のしかた** 参照

タイマーランプ

点灯…タイマー運転待機中かタイマー運転中かタイマー運転終了時です。

点滅…タイマー時刻を設定中です。

運転ランプ

点滅…予熱中です。

点灯…運転中です。

温度／時刻合わせボタン

室温の設定、時刻の設定をおこないます。

「4 使用前の準備」の **現在時刻の設定のしかた**、「5 使いかた」の **室温の調節のしかた**、**タイマー運転のしかた** 参照

タイマーボタン

タイマー運転の設定をおこないます。

「5 使いかた」の **タイマー運転のしかた** 参照

消臭点火・時間延長・給油延長ボタン

運転スイッチ「入」	燃焼中に押したときから、再度約3時間の燃焼継続が可能になります。	「5 使いかた」の **消し忘れ消火装置の使いかた** 参照
	タイマー運転から、通常運転に切り替えるときに押します。	「5 使いかた」の **タイマー運転のしかた** 参照
	給油延長運転をするときに押します。	「4 使用前の準備」の **給油の目安・給油延長運転のしかた** 参照
運転スイッチ「切」	消臭点火の設定・解除をおこないます。	「5 使いかた」の **点火のしかた** 参照

(給油)表示

点灯…油タンクの灯油がなくなって消火する10分前。「ピー」音が鳴り、残り燃焼時間(分)を表示します。
点滅(運転中)…給油延長ボタンを押し、給油延長運転中を表示します。
点滅(運転停止)…灯油がなくなり自動消火しました。油タンクの給油時消火装置が作動しました。デジタル表示部が「-- --」表示となります。

「4 使用前の準備」の 給油の目安・給油延長運転のしかた 参照

℃ 表示

点灯…設定温度が設定されています。
点滅…設定温度を設定中です。

消臭 表示

点灯…消臭点火が設定されています。
点滅…消臭機能が作動中です。

「5 使いかた」の 点火のしかた 参照

設定温度　室内温度

25℃ 20℃

消臭

(チャイルドロック)表示

点灯…チャイルドロックが設定されています。

(エコ)表示

点灯…エコ運転が設定されています。

(換気)表示

点滅(運転停止)…
室内の空気が、酸素不足状態です。
- 窓やドアを開けて充分に部屋の換気をしてください。

点灯(運転中)…
- 運転して約1時間経過するたびに「ピー」音が鳴って「」表示が約1分間点灯します。
- 換気表示にたよらず1時間に1〜2回必ず換気してください。

デジタル表示部

(消臭点火が解除されている場合は 消臭 表示は消灯しています。)

■温度表示

設定温度…6℃〜28℃まで設定温度を選択できます。
室内温度…0℃〜32℃まで表示します。

設定温度　室内温度
25℃ 20℃
消臭

■現在時刻表示

現在の時刻を表示します。

設定温度　室内温度
8:00
消臭

■タイマー運転時刻表示

タイマー時刻表示は点滅します。
※タイマー運転終了時は「1Hr」を表示します。

●タイマー

設定温度　室内温度
6:00
消臭

■給油に関する残り燃焼時間表示

残り燃焼時間を表示します。
※灯油切れ時は「-- --」表示となります。

設定温度　室内温度
10
消臭

■不完全燃焼通知機能により自動消火したときのエラー表示

不完全燃焼通知機能の連続作動回数により「HH H1」〜「HH H3」を表示します。

設定温度　室内温度
HH H1

■再点火防止機能により自動消火したときのエラー表示

「HH H4」を表示します。

設定温度　室内温度
HH H4

■エコ運転表示

エコ運転中を表示します。

設定温度　室内温度
E CO
消臭

■消し忘れ消火装置による自動消火表示

「3Hr」を表示します。

設定温度　室内温度
3 Hr
消臭

■故障・異常により自動消火したときのエラー表示

自己診断機能により、故障時にはE-0〜E-9を表示します。

設定温度　室内温度
E- 5

■クリーニング燃焼表示

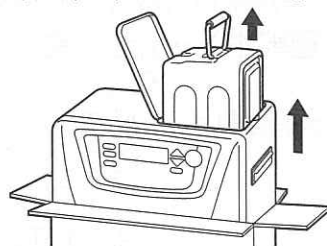
クリーニング燃焼の残り時間を表示します。

設定温度　室内温度
CL:05
消臭

4 使用前の準備

ストーブを取り出す

包装箱に表示してある「包装の内容」をごらんになったうえで、包装箱から包装材などを取り除き、製品を傷付けないように取り出してください。
包装箱や包装材はストーブを保管するときに必要です。取扱説明書、保証書も忘れずに保管してください。

※イラストは「LC-L36A・L43A」です。

燃料

◉燃料は灯油(JIS1号灯油)を必ず使用してください。
◉変質灯油、不純灯油は、絶対に使用しないでください。

⚠危険

★ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。少量の混入でも、火災の原因になります。

ガソリン禁止

- 変質灯油、不純灯油(灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など)は、絶対に使用しないでください。異常燃焼や故障の原因になります。
- 市販されている助燃剤(添加剤)は使用しないでください。異常燃焼を起こすおそれがあります。

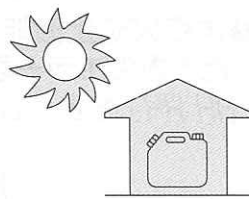
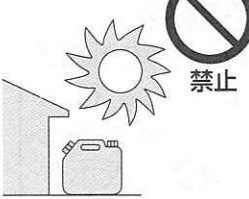
灯油とガソリンの見分けかたのポイント

指先に使用燃料をつけて息を吹きかけます。(火の気のない所でおこなってください。)

○ 灯 油	× ガソリン
濡れたままです。	すぐ乾いてしまいます。

◉灯油の保管のしかた

- 灯油は必ず火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。
- 灯油容器は専用のきれいな容器を使用してください。また、灯油容器は必ず色付きの灯油専用容器を使用してください。
- 灯油容器内の灯油が少ないと温度変化により結露して水がたまることがあります。
- ドラム缶などで、長期間大量に保管しないでください。
- お子様の手のとどかない所に保管してください。

良い保管	悪い保管
直射日光、雨水が当たらず、火気のない冷暗所へ保管。	直射日光、雨水の当たるベランダなど、室外の保管。 禁止

変質灯油とは

- 古い灯油。(2年以上持ち越した灯油)
- 長期間、日光の当たる場所や、温度の高い場所に保管した灯油。
- 容器のふたが開けてあったり、乳白色の容器で保管した灯油は変質しやすい。
- 変質のひどいものは黄色味をおびたり、すっぱいにおいがします。

使用禁止

不純灯油とは

●灯油以外の油（ガソリン、シンナー、天ぷら油、機械油、重油など）がほんの少しでも混入した灯油。
●水やごみが混入した灯油。

変質灯油・不純灯油の見分けかた

コップに水を入れ、次に灯油を入れて背後に白い紙をあてます。

水と同じ無色透明なら正常。	少しでも色がついていたら使用しない。	変質灯油の見分けかたはたいへん難しいので、メーカーのはっきりしない灯油は使用しないでください。
灯油 水 白い紙	灯油 水 白い紙 使用禁止	

変質灯油や不純灯油を使用すると

●変質灯油や不純灯油を使用しますと、バーナーに多量のタールがたまり、点火しなくなったり、燃焼が悪くなったり、激しいにおいがしたりします。
●水の混入した灯油を使用しますと、炎が小さくなり火が消えてしまいます。また、油タンクに灯油が残っているのに、「 」を表示することがあります。
●ガソリン、シンナーなど揮発性の高い油を使用しますと、火災の原因になります。

万一変質灯油や不純灯油を使ったときの処置のしかた

1 油タンク、油受け、油受けざら内の変質灯油や不純灯油を抜き取り、良質の灯油で内部を2～3回洗ってからご使用ください。
（「7 点検・手入れ」の **油受けの掃除**、**油タンク、油受けざらの掃除** 参照）

2 変質灯油や不純灯油を抜き取っても効果のないときは、販売店までお問い合わせください。

お願い

変質灯油や不純灯油が原因でアフターサービスを依頼されたときは、保証期間中でも有料修理となります。

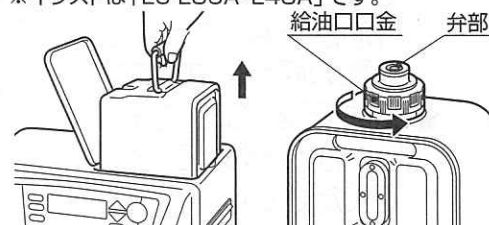
給油のしかた

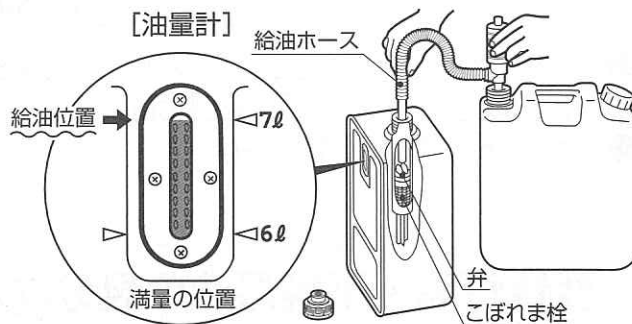
⚠注意

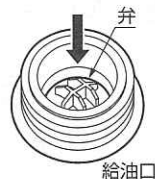
給油は必ず消火していることを確認して、ストーブの温度が充分下がってから他に火の気のない所でおこなってください。火災のおそれがあります。

1 油タンクを取り出す。

●油タンクを取り出し、給油口口金を、左「 」に回して開けてください。
●給油口口金を取りはずす前に、先端の弁部を押すと、給油口口金が取りはずしやすくなります。

※イラストは「LC-L36A・L43A」です。

2 油量計を見ながら給油する。

●市販の給油ポンプの先端をジャバラの手前まで差し込んで、油量計を見ながら給油してください。（ホースが抜けないように注意しながら給油してください。）
●灯油は、油量計のほぼ上部（右図の給油位置 ➡）まで給油してください。入れ過ぎますと、あふれ出ることがありますので充分注意してください。

お願い

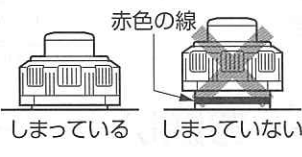
●油タンクの中にある**「こぼれま栓」**の弁が、給油口の近くまで上がっているときは、弁を下へ押し下げてください。
●油タンクの中にある**「こぼれま栓」**は、給油口口金がはずれたときに、油漏れを防ぐ装置ですので、取りはずさないでください。

オート給油ポンプ（自動停止装置付）を使用する場合

●市販のオート給油ポンプ（自動停止装置付）の中には、**「こぼれま栓」**と干渉して、次のような不具合状態になり、正しく給油できないものがあります。
〔不具合〕1 スイッチをいれると、すぐに停止してしまう。
（処置）●油タンクに差し込むホースのセンサー部の位置（方向）を変える。
（処置）●ポンプの乾電池の消耗度を確かめる。消耗していれば交換する。
2 自動停止しない。灯油があふれてしまう。
（処置）●ポンプの取扱説明書に従って、固定具の位置を調節する。
●**上記の処置をしても正しく給油できない場合は、直ちに給油を中止し、他の給油ポンプ（手動式ポンプなど）を使用して、正しく給油してください。**

3 給油口口金を「カチッ」と音がするまで、右「↻」へ回して、しっかり締める。

●正しく締めると油タンクの赤色の線が見えなくなります。
●給油口口金を下にして、油漏れがないことを確かめてください。

お願い

給油口口金を斜めに締めたりすると、簡単に給油口口金がはずれて、火災の原因になります。

●油タンクから灯油が漏れる状態で使用しないでください。
火災のおそれがあります。
●同時に多数の油タンクに給油する場合は、類似している給油口口金がありますので、間違えないようにしてください。
灯油が出なくなったり、故障の原因になります。

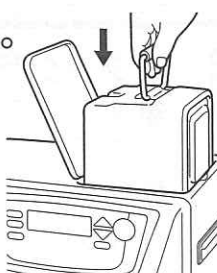
〔本機用の給油口口金〕

●灯油容器のふたも、しっかり締めておいてください。

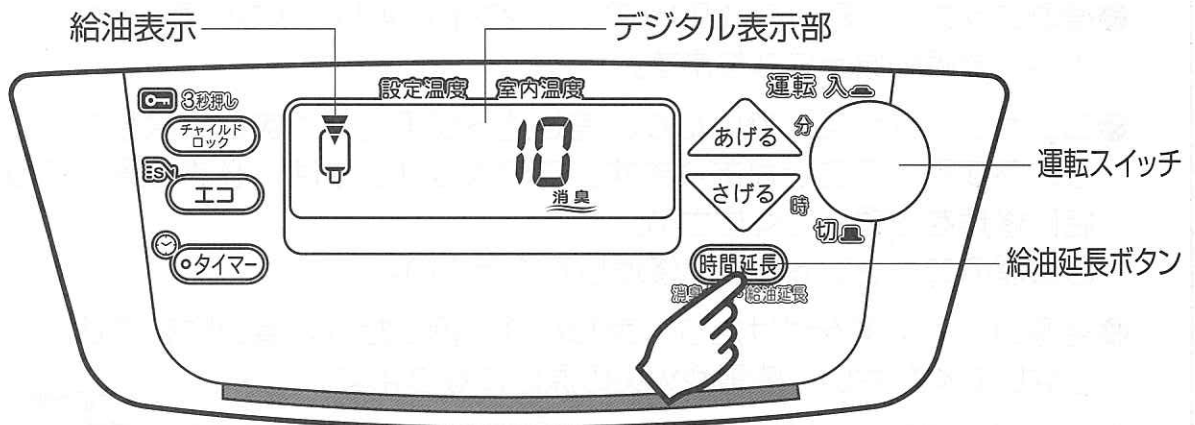
4 こぼれた灯油はよくふき取る。

●こぼれた灯油は必ずきれいにふき取ってください。危険ですし、燃焼中に臭気が発生する原因にもなります。

5 油タンクをセットする。

●油タンクを、本体に正しく、ゆっくりとセットしてください。

給油の目安・給油延長運転のしかた

⚠注意	
	給油は必ず消火していることを確認して、ストーブの温度が充分下がってから他に火の気のない所でおこなってください。火災のおそれがあります。 消火
	ストーブを移動するときは、必ず消火し、ストーブの温度が充分下がってから油タンクを取り出し、傾けないように静かに移動してください。灯油が漏れたり、火災になるおそれがあります。 指示

油タンクの灯油が空になっても、油受けざら内に残っている灯油を燃焼させることで、燃焼を延長(給油延長運転)させることができます。
給油延長運転中は、室温に関係なく最小の燃焼をします。

1 油タンクの灯油がなくなると、「 」表示が点灯し、「ピー」音が鳴ります。デジタル表示部に残り燃焼時間(分)「 10 」を表示します。

- 「運転スイッチ」を押して消火してから、給油してください。
- 給油しませんと、2分ごとに「ピー」音が鳴ります。約10分後に、「 」表示が点滅し、デジタル表示部の残り燃焼時間表示が「 -- -- 」表示となり自動消火します。

2 給油延長運転をするとき

- 油タンクの灯油がなくなり「 」表示が点灯したときに、**「給油延長ボタン」**を押すと、「 」表示が点滅に変わり、給油延長運転をして、**「表1」**の間、燃焼継続をします。デジタル表示部の残り燃焼時間表示(分)が変わります。
給油延長運転中は「 」表示が点滅します。残り燃焼時間が10分以下になると2分ごとに「ピー」音が鳴ります。
- 自動消火する前に、「運転スイッチ」を押して消火してから給油してください。
- 給油しませんと、「 」を表示し、デジタル表示部の残り燃焼時間表示が「 -- -- 」表示になると自動消火します。

表1

LC-L36A·LC-L43A	最大約90分間	LC-L53A	最大約60分間

「給油延長ボタン」を押すと、時間延長(燃焼)も同時にセットされます。
(「5 使いかた」の 消し忘れ消火装置の使いかた 参照)

4 使用前の準備

点火前の準備と確認

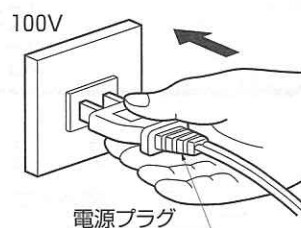
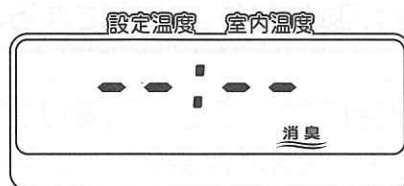
1 水平の確認をする。

●ストーブは振動のない、水平でしっかりした場所に設置してください。
ストーブが、傾いてないか、不安定な状態になっていないか、必ず確かめてください。

●ストーブを傾いた状態で使用しますと、対震自動消火装置が誤作動することがあります。また、転倒しやすく、異常燃焼の原因になります。

2 電源プラグをコンセント(家庭用AC100V)に確実に差し込む。

●「ピー」音がします。

●デジタル表示部に「 --:-- 」表示が点灯します。

お願い

●電源プラグを、絶対に、200Vのコンセントに差し込まないでください。感電・火災・故障の原因になります。

●コンセントがゆるんでいたり、差し込みが不充分ですと、電源プラグが過熱し、熱変形することがあります。このようなときは、必ずお買い求めの販売店に修理を依頼してください。
お部屋のコンセントも必ず修理してください。

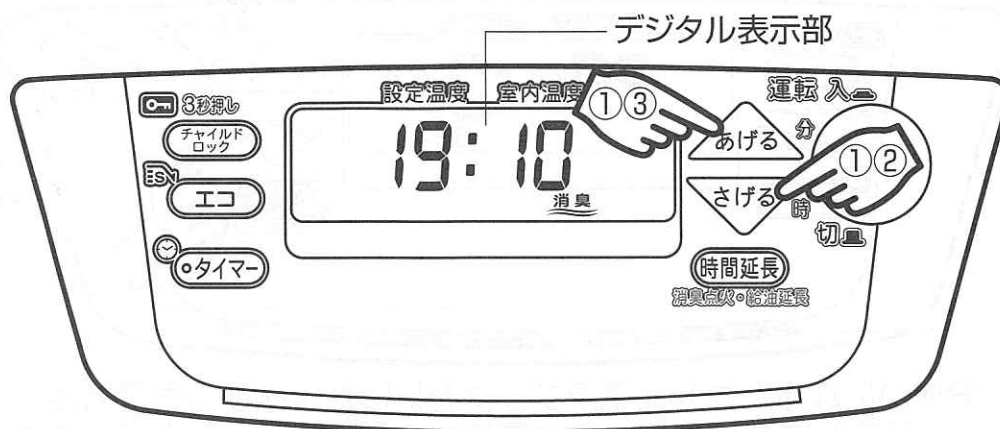
●電源コードに傷を付けたり、束ねたり、折ったり、重い物をのせたり、加工しないでください。感電や火災の原因になります。

●他の電気器具と同時に使用するときは、ご家庭の安全器(ブレーカー)の容量をこえないようにしてください。

●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かないでください。断線、発熱、発火の原因になります。

●熱に弱いじゅうたんや床の上で長時間使用すると、床面が変色したり、そり返ることがありますので、熱に強いマットなどを敷いてください。

現在時刻の設定のしかた

（運転停止中にしかできません）

例 **現在時刻が午後 7 時10 分の場合**

① さげる時 または あげる分 のボタンを一度押す。
「ピー」音がして「 -- -- 」表示が点滅します。

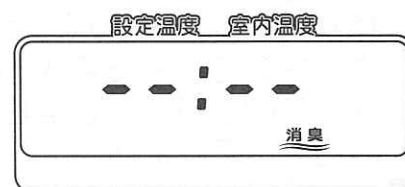
② デジタル表示を見ながら さげる時 のボタンを押して「 19 」に合わせる。

③ デジタル表示を見ながら あげる分 のボタンを押して「 10 」に合わせる。

- さげる時・あげる分 のボタンは、一度押すごとに 1 時間または 1 分間ずつ進みます。押し続けますと連続的に進みます。
- 時刻合わせをする場合は、デジタル表示部の時計表示が点滅している間に さげる時・あげる分 のどちらかのボタンを押してください。
  時刻合わせができなかった場合は、もう一度 さげる時 または あげる分 のボタンを押してやり直してください。

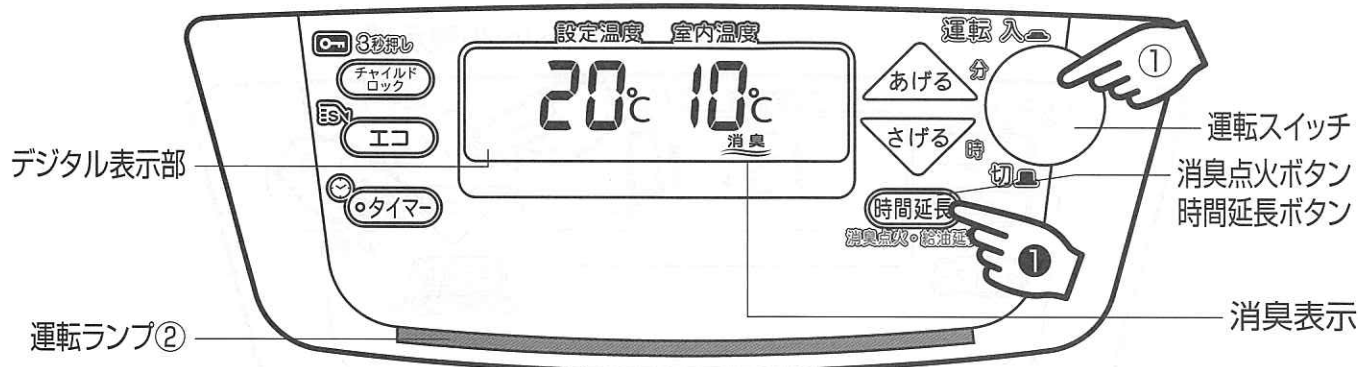
④「 19 」「 10 」が、点滅から点灯に変わり、設定が完了します。

お願い

- ストーブの時刻表示がズレる場合は、電源プラグを一度抜いて、もう一度差し込み直して、時刻を設定し直してください。それでも直らないときはお買い求めの販売店までお問い合わせください。
- ストーブに初めて通電したときや、停電後や、電源プラグを抜いて再通電した場合、デジタル表示は右図のように「 --:-- 」表示が点灯しますので、現在の時刻を設定してください。

★省電力機能

デジタル表示部の時計表示は、約 5 分間経過しますと、省電力機能がはたらいて、デジタル表示部が消灯して、電力の消費を抑えます。
時刻を確認したい場合は、操作部の「運転スイッチ」以外のどれかのボタンを押すと表示します。「運転スイッチ」を押すと点火動作に入ります。（運転中及びタイマー運転待機中にこの機能ははたらきません。）

5 使いかた

点火のしかた

購入後初めてお使いになるときや、電源プラグを抜いた状態から再度お使いになるときには、消臭点火に設定してありますので、最初から「消臭」表示が点灯します。
消臭点火は、点火までの時間を長くして(**「表2」**参照)、予熱を充分におこない、点火時のにおいを少なくする点火方法です。

①「運転スイッチ」を押して「入」にする。

●「ピー」音がして「運転ランプ」が点滅します。
●デジタル表示部に設定温度と室内温度を表示します。

> 油タンクに灯油があるのに「　」表示が点灯、または点滅している場合は、油受けを取り出し、ごみや水を捨て、灯油で洗浄してください。
> (「7 点検・手入れ」の **油受けの掃除** 参照)

②一定時間経過後(「表2」参照)に自動的に点火し、「運転ランプ」が点灯に変わります。

★消臭点火解除方法

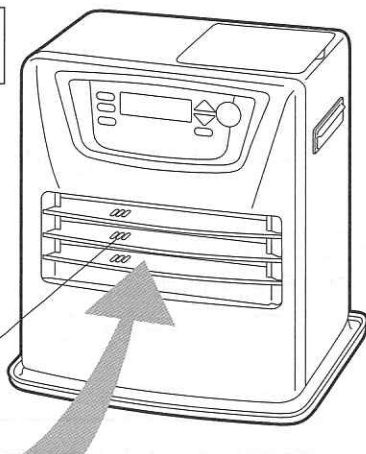
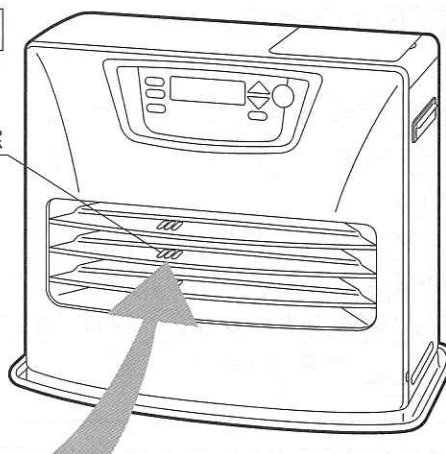
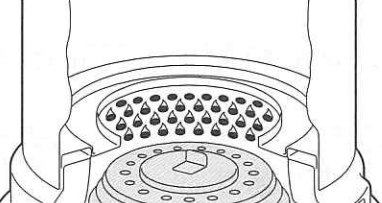
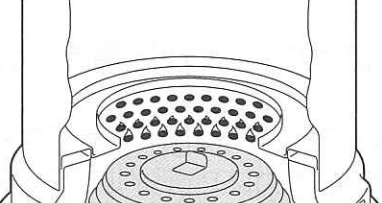
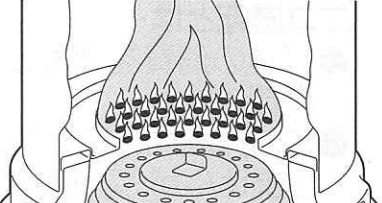
❶**「運転スイッチ」**が**「切」**のときに**「消臭点火ボタン」**を押すと、「消臭」表示が消灯して消臭点火が解除され、点火までの時間が短かくなります。(**「表3」**参照)
室内温度が6℃を下まわる場合は、点火までの時間が長いまま(**「表2」**参照)です。

表2	LC-L36A・LC-L43A	約150秒	LC-L53A	約210秒
表3	LC-L36A・LC-L43A	約90秒	LC-L53A	約150秒

お願い

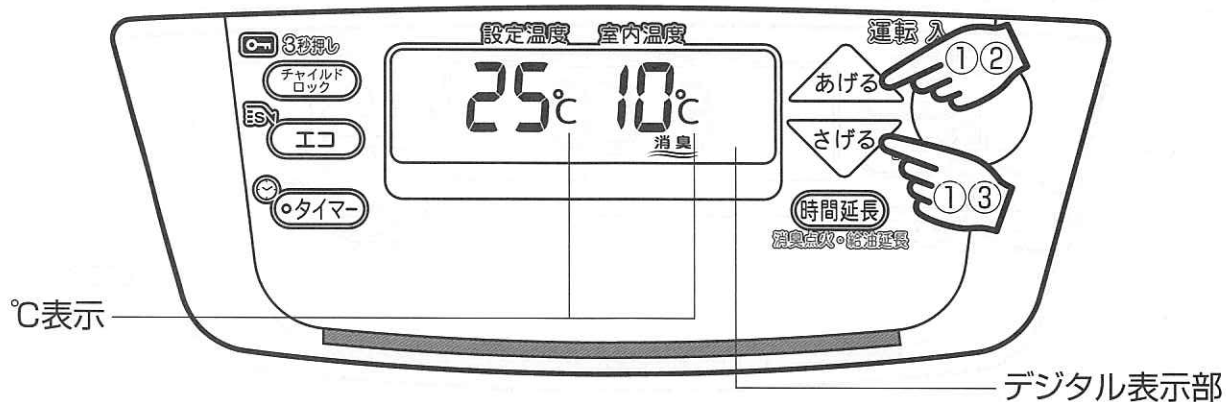
●初めて運転するときや、ストーブを移動させたり、激しい振動が加えられた後に運転するとき、白煙(灯油の蒸気)や臭気が出ることがあります。これは、移動、振動によりバーナー(燃焼部)内に落ちた余分な灯油が蒸発することによるもので、一度点火し、余分な灯油がなくなれば白煙や臭気はなくなります。このような場合は白煙、臭気がなくなるまでは(窓を開けるなど)換気をおこなってください。
●点火時にバーナー(燃焼部)内で、「ボッ」という音や「ゴーゴー」という音がします。これは点火を確実にするためで異常ではありません。
●点火時には少しにおいがあります。
●燃焼中「チッチッチッ」というような音がすることがありますが、電磁ポンプの音です。また、燃焼中に「ジュッジュッ」、「シャンシャン」などの音がする場合がありますが、これは灯油が蒸発する音です。異常ではありません。
●消し忘れによる、万一の事故を防ぐために、点火後約3時間で自動消火します。燃焼を継続する場合は、消火する前に「時間延長ボタン」を押してください。
(「5 使いかた」の **消し忘れ消火装置の使いかた** 参照)

炎の状態

ストーブを使用するときは、正常に燃焼しているか燃焼確認窓から炎の状態を必ず確認してください。

（ここに表示した状態は「強」（最大）燃焼の状態です）

炎の図	正常	異常	異常（使用禁止）
状態	●青炎燃焼で炎の先端に多少黄炎が入る。 ●炎の伸びや、燃焼音が小さい。	炎が黄色く燃焼音が大きい。	●炎が高く伸び、炎全体が黄色。 ●「ポー」というような異常音がする。
処置	――――	●燃焼空気取入口（給気フィルター）を掃除する。 ●お買い求めの販売店にご相談ください。	

室温の調節のしかた

（運転中にしかできません）

購入後、初めてお使いになる場合は、「20」(20℃)が設定温度となります。

5 使いかた

① さげる時 または あげる分 ボタンを1度押す。
「ピー」音がして「 ℃ 」表示が、点滅します。

②温度を上げるとき。
デジタル表示を見ながら あげる分 のボタンを押す。

③温度を下げるとき。
デジタル表示を見ながら さげる時 のボタンを押す。

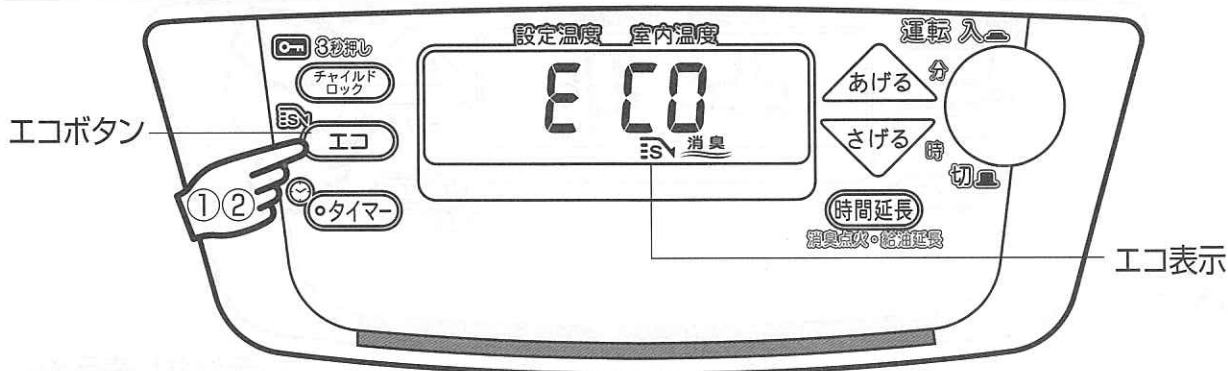
- 温度設定をする場合は「 ℃ 」表示が点滅している間に さげる時・あげる分 ボタンのどちらかを押してください。設定できなかった場合はもう一度押して、やり直してください。
- 設定温度は6℃〜28℃、室温表示は0℃〜32℃まで表示します。
- 設定温度にコントロールするために自動的に火力を調節します。
- 一度温度設定しますと、その温度を記憶していますので変更をしない限り、消火後再運転する場合、同一設定温度になります。

お願い

- 室温が約18℃以下のときは「微弱」または「ミニ」燃焼しないことがあります。
- 温度調節は温風空気取入口近くの温度を感知しておこないますので、ストーブの位置や部屋の大きさなどで、必ずしも、デジタル表示部の室内温度表示と、室温とは一致しません。

エコ運転のしかた （運転中にしかできません）

エコ運転とは…

- 灯油の消費を抑えることにより、CO_2排出量を抑えた環境にやさしいエコロジー機能です。
- エコ運転中はデジタル表示部に「 E C0 」表示をし、設定温度と室内温度は表示しませんが、灯油を節約するために内部的に下記の制御をします。
  ①設定温度が26℃以上の場合は、25℃に切り替わります。
  ②設定温度より室温が約3℃上昇しますと、自動的に消火します。自動消火した後でも、運転ランプは点灯したままになります。
  ③室温が設定温度を下まわると自動的に再点火します。
  ④室温が設定温度付近で安定した場合に、設定温度を1℃下げ、これを設定温度が20℃になるまで繰り返します。
- エコ運転中に さげる時 または あげる分 ボタンを押すと、設定・室内温度表示に切り替わり、温度設定をすることができます。

設定のしかた

①「エコボタン」を押す。

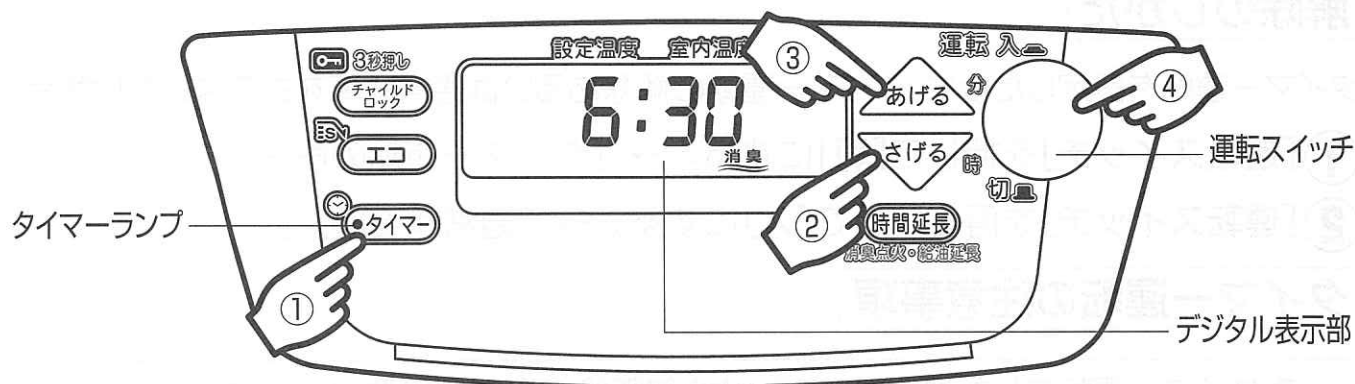
- 「ピー」音がして「 E C0 」表示に切り替わり、「 ES 」表示が点灯し設定されます。
- エコ運転は一度設定すれば、記憶されます。ただし、設定が記憶されていても消火時には表示されません。

解除のしかた

②「エコボタン」を押す。

●「ピー」音がして設定・室内温度表示に切り替わり、「ES」表示が、消灯し解除されます。
●電源プラグを抜いたり、停電があった場合は、自動的に解除されます。
●解除後はエコ運転設定前の設定温度にもどりません。再度、温度設定をしてください。

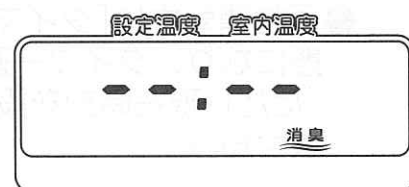
タイマー運転のしかた（タイマーを使用して暖房を始めたいとき）

タイマー運転をする場合は、「4 使用前の準備」の **現在時刻の設定のしかた** に従って、時刻合わせをしてからでないとタイマー運転できません。

通常、タイマー運転設定時刻の0分から25分前に運転を開始します。
このストーブのタイマー運転は、ファジーコントロールで、お部屋の大きさと室温により自動的に運転時刻を決定し、設定時刻には、お部屋を暖かくしておきます。

設定のしかた

例 午前6時30分に設定したいとき

①「タイマーボタン」を押す。

「ピー」音がしてデジタル表示部が「 --:-- 」表示に変わり、「タイマーランプ」が点滅します。

②デジタル表示を見ながら さげる時 のボタンを押して「 6 」に合わせる。

③デジタル表示を見ながら あげる分 のボタンを押して「 30 」に合わせる。

●さげる時・あげる分 のボタンは、一度押すごとに1時間または5分間ずつ進みます。押し続けますと連続的に進みます。
●時刻合わせをする場合は、「タイマーランプ」が点滅している間に さげる時・あげる分 のどちらかのボタンを押してください。
●設定できなかった場合は、もう一度「タイマーボタン」を押してやり直してください。

④「タイマーランプ」が点滅している間に、「運転スイッチ」を押して「入」にする。

●少し待つと、「タイマーランプ」が点灯し、デジタル表示は現在の時刻を表示してセットが完了します。
●タイマー運転時刻を設定しないと、デジタル表示部に「 Er or 」が表示されます。

5 使いかた

- タイマー運転は、一度タイマー運転時刻を設定すれば、変更しない限り、「タイマーボタン」を押して「タイマーランプ」の点滅中に、「運転スイッチ」を押して「入」にするだけで同一時刻で設定が完了します。（停電や電源プラグを抜いた後でもタイマー時刻を記憶しています。）
- 「運転スイッチ」を押して、「入」になっているときに、「タイマーボタン」を押すと、タイマーランプが点滅し、少し待つと、「タイマーランプ」が点灯しセットが完了します。
- タイマー運転時刻を変更する場合は前記と同手順でおこなってください。

解除のしかた

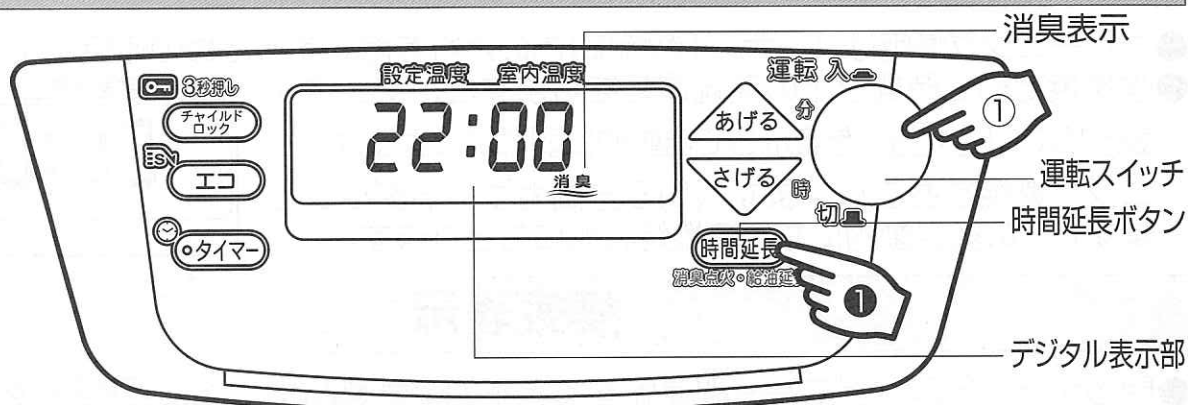
タイマー運転を設定した後に、タイマー運転の解除あるいは通常運転をおこないたい場合。

① **「運転スイッチ」**を押して**「切」**にする。→ [タイマー運転の解除]

② **「運転スイッチ」**を再度押して**「入」**にする。→ [通常運転開始]

タイマー運転の注意事項

- タイマー運転をした場合、点火後約1時間後に自動的に消火し、「タイマーランプ」が点灯した状態で、デジタル表示部の「1Hr」表示が点灯します。連続運転するときは、タイマー運転の点火後1時間以内に「時間延長ボタン」を押してください。これは閉め切った部屋で長時間、換気せずに燃焼すると、空気不足で危険となるためで、手をふれない場合は、自動的に消火します。
- 残りの燃焼時間が、10分になるとデジタル表示部に数字で 10 、9 ・・1 と表示し、2分ごとに「ピー」音でお知らせします。
- 通常運転中に「タイマーボタン」を押すと、消火して「タイマー運転」の待機状態になり、タイマー運転時刻に自動的に点火します。
(ただし現在時刻を設定してからでないと、「タイマー運転」の待機状態になりません。)
- タイマー運転時刻の確認は、タイマー運転待機中または運転停止時に「タイマーボタン」を押すと、約10秒間表示します。
- タイマー運転操作後に停電があったとき、ストーブを揺らして対震自動消火装置が作動したときは点火しません。

消火のしかた

①「運転スイッチ」を押して「切」にする。

●「ピー」音がしてデジタル表示部は現在の時刻を表示し、「消臭」表示が点滅して、消臭機能の作動中を表示します。
●消火後、しばらくはストーブ内部を冷やすために対流用ファンは回転し続けます。（この間、「消臭」表示は点滅しています。）

消火時の注意

●消火後、対流用ファンが止まるまで、電源プラグをコンセントから抜かないでください。音が出たり、炎が出たり、すすが発生して再点火後に安全装置が作動してエラーで停止することがあります。（「9 故障・異常の見分けかたと処置方法」の **異常のお知らせ（デジタル表示の見かた）** 参照）
●緊急のときを除いて、消火は必ず「運転スイッチ」を使用してください。電源プラグを抜いて消火させないでください。

お願い

●消火操作をしたときは「運転ランプ」の消灯とバーナー（燃焼部）内の火が消えることを確認してください。
●消火時にはバーナー（燃焼部）内で「ボッ」という音や「ゴーゴー」という音がします。これは消火を確実にするためで異常ではありません。
●消火直後、温風空気取入口は高温になることがあります。
●点火してすぐに消火操作をしたとき、きつい臭気が発生することがあります。点火後約20分間はできるだけ消火しないでください。
●長期間留守にするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

消火後再点火するときの注意

●**消火後すぐに再点火すると、異常音が出ることがありますので、しばらく待ってから再点火してください。**
●ストーブが暖かいうちに再点火操作をしたときの予熱時間は、短かくなります。（**「表4」**参照）

表4

LC-L36A·LC-L43A	約40秒	LC-L53A	約50秒

消し忘れ消火装置の使いかた

（運転を延長したいとき）

●消し忘れによる、万一の事故を防止するために、**点火してから約 3 時間燃焼が継続すると、デジタル表示部に「3Hr」を表示して、自動的に消火します。**
●残りの燃焼時間が、10分になるとデジタル表示部に数字で 10、9・・1 と表示します。
●この間、2 分ごとに「ピー」音でお知らせします。

❶消火する前に「時間延長ボタン」を押す。

●その時点から再度約3時間の燃焼継続が可能になります。
●自動消火した場合は、「運転スイッチ」を押し直してください。

クリーニング燃焼表示

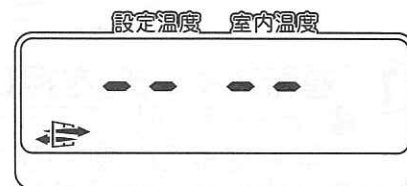
●クリーニング燃焼はバーナー（燃焼部）内の汚れを除去するための燃焼です。

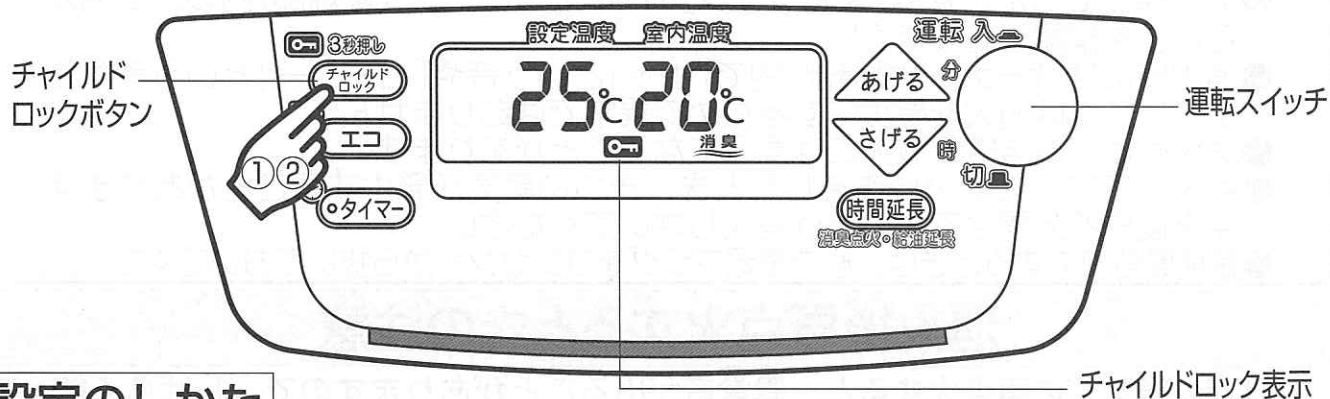
●強燃焼で約２時間以上の連続運転をしますと、デジタル表示部に「CL:05」を表示して自動的に弱燃焼によるクリーニング燃焼をおこないます。（約５分間カウントダウンします）その後自動的にもとの燃焼状態にもどります。

換気表示

●閉め切った部屋などで長時間運転すると不完全燃焼防止装置が作動して「換気」表示が点滅し「ピー」音が５秒間鳴って運転を停止し、デジタル表示部に「-- --」表示が点滅します。

●連続して不完全燃焼防止装置が作動した場合は不完全燃焼通知機能が作動します。（「6 安全装置」参照）

●運転して１時間経過するたびに「ピー」音が鳴って「換気」表示が約１分間点灯します。「換気」表示にたよらず、１時間に１～２回（１～２分程度）は必ず部屋の換気をしてください。

チャイルドロックのしかた

チャイルドロックは、お子様のいたずら操作の防止や、誤って「運転スイッチ」を押しても点火しないようにしたいときに使用します。

設定のしかた

① 運転中や運転停止中に「チャイルドロックボタン」を3秒以上長押しすると「鍵」が点灯し、チャイルドロックが設定されます。

●運転中は「運転スイッチ」で消火のみ操作可能です。設定温度の変更などの他の操作はできません。

●運転停止中はすべての操作ができません。

●チャイルドロックが設定されているときに、「運転スイッチ」を押して「入」にすると「Er or」が表示され点火できません。

解除のしかた

② チャイルドロックが設定されているときに「チャイルドロックボタン」を３秒以上長押しすると「鍵」が消灯し、チャイルドロックが解除されます。

6 安全装置

●安全装置が作動するのは何らかの異常があるときですから、下記の処置をしても正常にならないときは、お買い求めの販売店にご相談ください。
●再点火操作とは一度「運転スイッチ」を押して「切」にしてから再び押し直して「入」にすることをいいます。
●すべての処置は必ずストーブを消火し、ストーブの温度が充分下がってからおこなってください。

安全装置名	はたらき	処置
対震自動消火装置	●運転中にストーブが地震（震度約5以上）や強い振動、衝撃を受けたとき、火災などの危険を防ぐために自動的に運転を停止します。	●地震によって作動した場合は、周囲の可燃物、ストーブの損傷、油漏れなど異常がないことを確認した後、再点火してください。
不完全燃焼防止装置	●換気不良、手入れ不良、その他の異常によりバーナー（燃焼部）への空気の供給が不足したとき不完全燃焼による危険を防止するものであり、自動的に燃焼を停止します。 ●**不完全燃焼通知機能** 不完全燃焼防止装置が連続して作動したとき、不完全燃焼による危険を防止するために、作動したことを通知して、自動的に燃焼を停止します。（HH H1からHH H3を表示）	●作動した場合は本体が充分に冷えてから電源プラグを抜き、燃焼空気取入口（給気フィルター）の掃除をし、部屋の換気をした後、電源プラグを差し直して再点火してください。（販売店にご相談ください。）（「7点検・手入れ」の**燃焼空気取入口（給気フィルター）の掃除**参照）
	●**再点火防止機能** 不完全燃焼通知機能が連続して作動したとき、不完全燃焼による危険を防止するため、自動的に燃焼を停止します。（HH H4を表示します。）再点火防止機能が作動すると、以後の点火操作ができなくなります。 **この装置は、あくまでも不完全燃焼による危険を防止するためのものであり、使用中は必ず1時間に1～2回換気して、新鮮な空気を補給してください。**	●作動した場合は販売店にご相談ください。
点火安全装置	●点火ヒーターの赤熱不足や、バーナーサーミスタの不良による点火不良。 ●点火ヒーター、電磁ポンプ、ブロアモーターなどの故障により点火しないときに、運転を停止します。	●点火ヒーターの故障が原因で運転を停止したときはバーナー底に灯油がたまります。 完全に乾燥させてから、ご使用ください。 （販売店にご相談ください）
停電安全装置	●運転中に停電や電源プラグを抜くなどして電源が切れたときは、自動的に運転を停止します。再び通電されても運転しません。 ●タイマー運転中に停電があった場合、タイマー運転は解除されます。	●再点火操作をします。 ●現在時刻の設定とタイマー運転の設定をやり直します。 （「4使用前の準備」の**現在時刻の設定のしかた**、「5使いかた」の**タイマー運転のしかた**参照）
燃焼制御装置	●燃焼中に炎が消えたとき、自動的に運転を停止させる安全装置です。	●再点火操作をします。
過熱防止装置	●対流用ファンモーターの故障や異常燃焼や温風空気取入口のほこりつまりなどの原因でストーブが異常過熱したとき、火災などの危険を防ぐために燃焼を停止します。	●温風空気取入口のほこりを取り除いてから、再点火操作をします。 「7点検・手入れ」の**温風空気取入口の掃除**参照）
消し忘れ消火装置	●消し忘れによる危険を防止するために、点火してから約3時間、燃焼が継続すると自動的に運転を停止します。	●消火する前に「時間延長ボタン」を押す。 ●消火した場合は、再点火操作をします。
気密油タンクの給油時消火装置	●運転中に油タンクを取り出したとき、自動的に運転を停止します。	●油タンクに給油して、本体にもどしてから再点火操作をします。

7 点検・手入れ

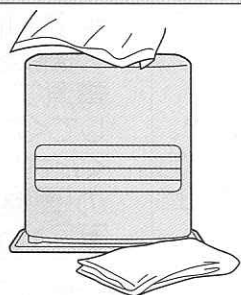
点検・手入れのしかた

点検・手入れをおこなうときは

- **点検・手入れをするときは、必ずストーブを消火し、電源プラグをコンセントから抜いて、ストーブの温度が充分下がってからおこなってください。やけどや感電をするおそれがあります。**
- 部品に触るときや、内部を掃除するときは、手をけがしないように、手袋をはめておこなってください。
- ストーブをベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色します。
- 電装品やバーナー（燃焼部）の取りはずし、分解はおこなわないでください。

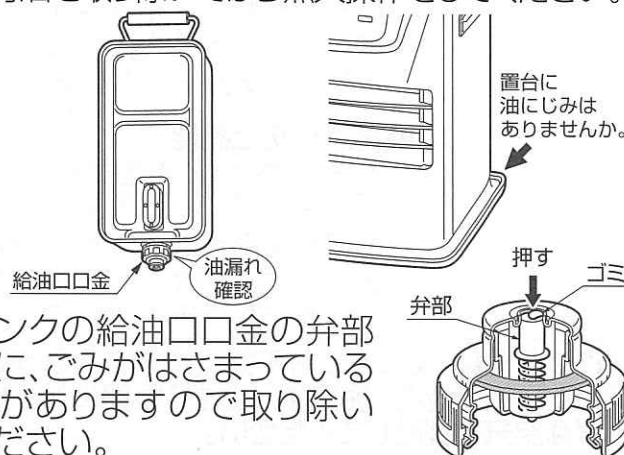
使うたびに

周囲の可燃物の点検

ストーブの周囲は、常に整理、清掃し、燃えやすい物を置かないようにしてください。

ほこりの掃除

- ストーブに付いたほこりや汚れは、掃除機で吸い取ったり固くしぼった濡れ雑巾などでふき取ってください。汚れたままのご使用は危険のもとですし、ストーブの傷みを早めます。

油漏れ、油のたまり、油のにじみの点検

- 万一油漏れによって、油のたまり、油にじみが生じているときは、消火操作をし、原因を確かめ防漏処置をし、油漏れがなくなったことを確認した後、漏れた灯油を取り除いてから点火操作をしてください。

- 油タンクの給油口口金の弁部などに、ごみがはさまっている場合がありますので取り除いてください。

1週間に1回以上

燃焼空気取入口（給気フィルター）の掃除

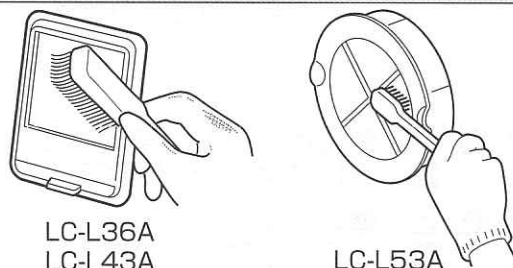
ストーブ（背面または側面）にある燃焼空気取入口（給気フィルター）にごみやほこりが目づまりしますと、燃焼用の空気量が減って不完全燃焼の原因になります。
燃焼空気取入口（給気フィルター）に付いているほこりを、掃除機などで吸い取ってください。

燃焼空気取入口
（給気フィルター）

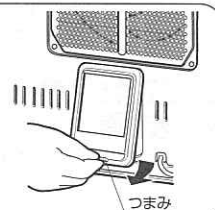
LC-L36A・LC-L43A　　LC-L53A

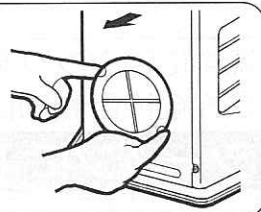
ときどき、燃焼空気取入口（給気フィルター）をはずして掃除をしてください。

燃焼空気取入口（給気フィルター）の目の中がつまっている場合がありますので、やわらかいブラシなどで、燃焼空気取入口（給気フィルター）の目のつまりを掃除してください。
（光にかざして目づまりがきれいになったか確認してください。）

LC-L36A
LC-L43A

LC-L53A

LC-L36A・LC-L43A

燃焼空気取入口（給気フィルター）の脱着は、つまみを持ち上げながら矢印の方向に引っ張って取りはずします。また、取り付けは燃焼空気取入口（給気フィルター）上部を相手側部品に引っかけた後、つまみ部を押し込みます。

LC-L53A

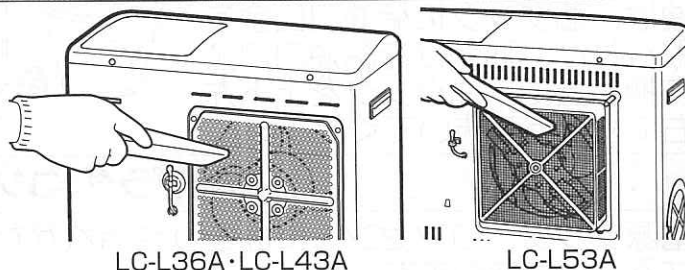
燃焼空気取入口（給気フィルター）の脱着は、矢印の方向に引っぱって取りはずします。また、取り付けは燃焼空気取入口（給気フィルター）を相手側部品に押し込みます。

お願い

- **布などでふくのはおやめください。かえって目づまりします。**
  汚れが取れないときは、洗剤で洗って、よく乾かしてからご使用ください。
- 取りはずしたときは必ず元通りに取り付けてください。
  （取りはずしたままでご使用されますと、異常燃焼の原因になります。）

温風空気取入口の掃除

ストーブ背面にある温風空気取入口にごみやほこりが目づまりしますと、温風用の空気量が減って過熱防止装置がはたらいて消火します。
対流用ファンが停止していることを確認してから温風空気取入口に付いているほこりを、掃除機などで吸い取ってください。

LC-L36A・LC-L43A

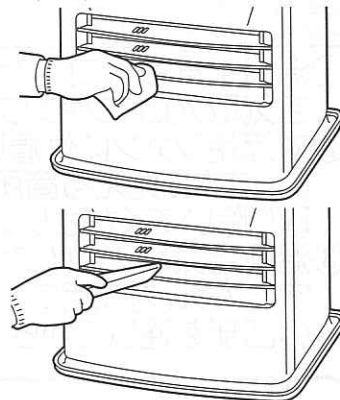
LC-L53A

1箇月に1回以上

温風吹出口（ルーバー）の掃除

温風吹出口（ルーバー）が汚れたり、ほこりが付着した場合は、掃除機や、固くしぼった濡れ雑巾などでふき取ってください。

※イラストは「LC-L36A・L43A」です。

お願い

このとき必ずストーブを消火し、電源プラグをコンセントから抜いて、温風吹出口（ルーバー）の温度が充分下がってからおこなってください。
やけどをするおそれがあります。

油受けの掃除

- 油受けは、灯油は通しますが水は通しにくいフィルターでできています。油受けに水やごみがたまると、油タンクに灯油があるのに、「 」表示が点灯することがあります。
- 油タンクを取り出してから、油受けを傾けないように取り出し、たまった水やごみを取り除いてください。

※イラストは「LC-L36A・L43A」です。

お願い

油受けは、水で洗わないでください。
必ずきれいな灯油で洗ってください。

対震自動消火装置の点検

- 燃焼中にストーブをゆすって、自動的に消火するかを点検してください。
- 自動的に消火しますと、デジタル表示部に「E-5」を表示します。

7 点検・手入れ

気密油タンクの給油時消火装置の点検

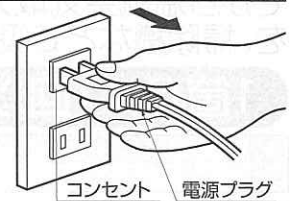
●燃焼中に油タンクを抜いて、自動的に消火するかを点検してください。
●約5秒後に自動的に消火しますと、デジタル表示部に「-- --」「 」を表示します。

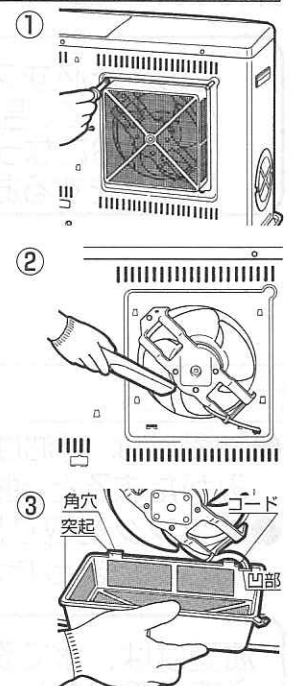
1シーズンに1～2回以上

油タンク、油受けざらの掃除

ストーブから油タンクと油受けを取り出し、市販の給油ポンプ(手動式)などで油タンク内や油受けざら内の水やごみを取り除いてください。
油タンク内のわずかに残った灯油は、油タンクに給油口口金を取り付け、油受けを給油口口金に押し当て、油タンクを上下左右にゆすって抜いてください。

電源プラグ、コンセントの点検

電源プラグ、コンセントにほこりや汚れがたまると火災の原因になることがあります。
電源プラグをコンセントから抜いて、付着したほこりや汚れを取り除いてください。

対流用ファンの掃除(LC-L53Aのみ)

①温風空気取入口(ファンフィルター)の止めねじ(2本)をはずし、温風空気取入口(ファンフィルター)をはずします。
②対流用ファンに付着したごみやほこりを、掃除機で吸い取ってください。また、見える箇所だけでよろしいですから、本体内部のほこりを取り除いてください。
③温風空気取入口(ファンフィルター)下側の突起をストーブ背面の角穴に入れ、対流用ファンのコードを温風空気取入口(ファンフィルター)の凹部を通してからふたをし、元通り組み立ててください。

お願い

●電源プラグをコンセントから抜いて、ストーブの温度が充分にさがってからおこなってください。
●対流用ファンにゴミやほこりが多量に付着しますと、温風用空気量が減って過熱防止装置がはたらいて消火します。温風空気取入口(ファンフィルター)の掃除をしても燃焼が停止するようであれば、対流用ファンのごみやほこりを掃除機で吸い取って取り除いてください。
●はずした温風空気取入口(ファンフィルター)は、必ず元通りに組み付けてください。けがをします。

8 定期点検

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。機器の寿命をより長く、より良い燃焼で快適に安全にお使いいただくために、2年に1回程度、シーズン終了後などに、お買い求め店、または修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL03-3499-2928)でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる店、当社などに点検依頼されることをおすすめします。

9 故障・異常の見分けかたと処置方法 ―修理を依頼される前に―

異常のお知らせ（デジタル表示の見かた）

安全装置が作動すると、自動消火します。また、デジタル表示部に故障・異常の原因が表示「エラー表示」されます。繰り返し表示するときや運転しないときは、お買い求めの販売店へご連絡ください。

デジタル表示	表示の意味	処置方法
E-0	●過熱防止装置が作動しました。	●温風空気取入口、温風吹出口（ルーバー）、対流用ファン（LC-L53Aのみ）の掃除をしてから再点火してください。（「7点検・手入れ」参照） ●ストーブの周囲の障害物を取り除いてください。
F-0	●停電消火後電源が入りました。 ●タイマー運転待機中に停電し、その後電源が入りました。	●再点火操作をしてください。 ●電源プラグなど電源をご確認ください。 ●電気系統の故障です。お買い求めの販売店まで「デジタル表示」（エラー表示）などをご連絡ください。
E-2	●消火後すぐに再点火操作しました。 ●点火安全装置が作動しました。 （●燃焼部にシリコーン酸化物が付着しました。）	●しばらく待ってから再点火操作をしてください。 ●修理が必要です。お買い求めの販売店まで「デジタル表示」（エラー表示）などをご連絡ください。
E-5	●本体を傾けたり、強い振動、衝撃を受けたため自動的に消火しました。 ●地震（震度約5以上）により消火しました。	●ストーブが傾いていないか確認してから、再点火操作してください。 ●地震によって作動した場合は、周囲の可燃物、ストーブの損傷、油漏れなど異常がないことを確認した後、再点火してください。
E-6 ---- 換気	●換気不良・手入れ不良、その他の異常によりバーナ（燃焼部）への空気の供給が不足したので不完全燃焼による危険を防止するため、自動消火しました。（不完全燃焼防止装置が作動）	●燃焼空気取入口（給気フィルター）の掃除をし、窓やドアを開けて充分に部屋の換気をしてから、再点火してください。（「7点検・手入れ」の 燃焼空気取入口（給気フィルター）の掃除 参照） ご使用中は必ず1時間に1～2回換気してください。
HHH1 HHH2 HHH3	●不完全燃焼防止装置が連続して作動すると、不完全燃焼通知機能がはたらきお知らせします。（HH H1からHH H3 表示）	●不完全燃焼通知機能がはたらいた時は、上記処置をおこなった後、電源プラグを差し直してから、再点火してください。処置をしても繰り返し作動するときは、お買い求めの販売店まで「デジタル表示」（エラー表示）などをご連絡ください。
HHH4	●換気しないでそのままさらに不完全燃焼防止装置（不完全燃焼通知機能）が作動すると、再点火防止機能がはたらき、消火して点火できなくなります。（HH H4 表示）	●再点火防止機能がはたらいたときは、お客様では処置できません。運転スイッチを「切」にしてお買い求めの販売店まで「デジタル表示」（エラー表示）などをご連絡ください。
E-7	●室温が33℃以上になりました。	●ストーブの周囲の障害物を取り除いてください。
E-8	●ブロアモーターが停止しました。	●電源プラグを入れ直してください。 ●電気系統の故障です。お買い求めの販売店まで「デジタル表示」（エラー表示）などをご連絡ください。
Eror	●チャイルドロック中に「運転スイッチ」を押して「入」にしました。	●「運転スイッチ」を押して「切」にし、チャイルドロックを解除してください。 （「5使いかた」の チャイルドロックのしかた 参照）
Eror	●タイマー運転時刻が設定されていません。	●「運転スイッチ」を押して「切」にし、タイマー運転時刻を設定してください。 （「5使いかた」の タイマー運転のしかた 参照）
---- 給油	●灯油がなくなり消火しました。 ●油タンクを取り出したため、気密油タンクの給油時消火装置が作動しました。	●灯油を給油してから、再点火操作をしてください。 ●油タンクを戻してから再点火操作をしてください。
1Hr	タイマーランプ ●タイマー運転が終了しました。	●再点火操作をしてください。
3Hr	●消し忘れ消火装置にて消火しました。	●再点火操作をしてください。
CL:05	●クリーニング燃焼中。 （約5分間カウントダウンします。）	●約5分後に自動的に通常運転にもどります。
全消灯	●省電力機能が作動しました。	●操作部のいずれかのボタンを押してください。
上記以外のエラー表示 （E-1,F-1,E-9）	●修理が必要な故障です。	●お買い求めの販売店まで「デジタル表示」（エラー表示）などをご連絡ください。

9 故障・異常の見分けかたと処置方法

故障かなと思ったときに

原因 ＼ 現象	運転ランプが点滅しない	点火しない	白い蒸気が出てとまる	炎が大きくならない	黄火でもえる	給油表示が点滅する	換気表示が点滅する	使用中室内がにおう	使用中急に消える	置台に油にじみがある	燃焼音が大きい	突然すべてのランプが消える	「ピー」音が鳴り続けすべてのランプが点滅	処置方法
電源プラグをコンセントに差し込んでいない	○											○		電源プラグをコンセントに差し込む
停電した	○								○			○		停電復帰後、再点火操作をする
対震自動消火装置が作動した									○ E-5					再点火操作をする
油受けに水が入った		○				○			○					油タンクと油受け内の水を取り除く
油受けざらに水が入った									○					市販の給油ポンプで水混入の灯油をしっかり抜く
燃焼空気取入口（給気フィルター）の目づまり			○		○			○	○ E-6					燃焼空気取入口（給気フィルター）を掃除する
油タンクに灯油がない		○				○			○					灯油を入れる
灯油が油タンクの出し入れでこぼれた								○		○				こぼれた灯油をきれいにふき取る
換気不良							○		○					部屋の充分な換気をする
変質灯油や不純灯油を使った			○	○	○			○			○			変質灯油や不純灯油を良質な灯油に入れかえる 販売店にご相談ください
省電力機能が作動した												○		操作部のいずれかのボタンを押す
給油口口金を間違えた						○								正しい給油口口金を取り付ける
ストーブ周囲の温度が異常に上昇した													○	ストーブ周囲の温度を確認する 販売店にご相談ください
不完全燃焼通知機能が作動した									○ HHH1～HHH3					燃焼空気取入口（給気フィルター）を掃除する 部屋の充分な換気をする 電源プラグを差し直してください
再点火防止機能が作動した									○ HHH4					販売店にご相談ください
気密油タンクの給油時消火装置が作動した						○			○					油タンクを本体にもどして再点火操作をする

●表中の E 表示は、「デジタル表示」（エラー表示）を示します。

●処置をおこなっても改善されない場合や、原因が特定できない場合や、該当する現象がない場合は、お買い求めの販売店までご連絡ください。

10 部品交換のしかた

部品交換のときの注意

- 部品交換や修理をお受けになる場合は、お買い求めの販売店か、(財)日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)などのいる販売店で修理されることをおすすめします。
- 不完全な修理は危険です。
- 故障したものは使わないでください。

- 短時間に消耗する部品は特にありませんが、交換部品が必要な場合は、お買い求めになった販売店にご相談ください。(「14 アフターサービス」の 補修用性能部品について 参照)
- インターネットでの部品購入は、http://toyotomi.shop14.makeshop.jp/ をご覧ください。
- 部品は必ずトヨトミ純正部品(指定された部品)をご使用ください。
- 部品を交換するときは、ストーブを消火し、ストーブの温度が充分に下がってから、電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。

11 保管(長期間使用しない場合)

- ストーブを保管する場合は、「7 点検・手入れ」の項を参照して、ストーブの手入れをしてから保管してください。また、破損している箇所は修理をしてから保管してください。
- 格納・保管場所は、湿気・火気・高温などの悪い影響のおよびにくい所であって、しかもストーブの上には重量物をのせたり、人がのったりしないよう配慮してください。

1 ストーブを消火し、ストーブの温度が充分下がってから、電源プラグをコンセントから抜く。

2 燃焼空気取入口(給気フィルター)、温風空気取入口、温風吹出口(ルーバー)、電源プラグに付着したほこりや汚れを掃除してください。

- 燃焼空気取入口(給気フィルター)は布などでふくのはおやめください。かえって目づまりします。

3 油タンク、油受けざら内の灯油、ごみ、水気を取り出す。

- 油タンク、油受けざらに水やごみが残ったまま保管すると、錆や穴あきの原因になります。

4 ストーブの表面をよくふいて、汚れを取る。

- 固くしぼった濡れ雑巾や、薄めた中性洗剤液で汚れを取り、乾いた布で水気をふき取ってください。(シンナー、ベンジンなどではふかないでください。)

5 包装箱に入れて保管する。

- 湿気の少ない所に保管してください。
- 傾けたり、横にして保管しないでください。抜けきれなかった灯油が漏れることがあります。
- 取扱説明書・保証書も必ず保管してください。

12 廃棄するとき

「7 点検・手入れ」の 油タンク、油受けざらの掃除 を参照して、油タンク、油受けざら内の灯油を抜き取ってから廃棄してください。

13 仕　様

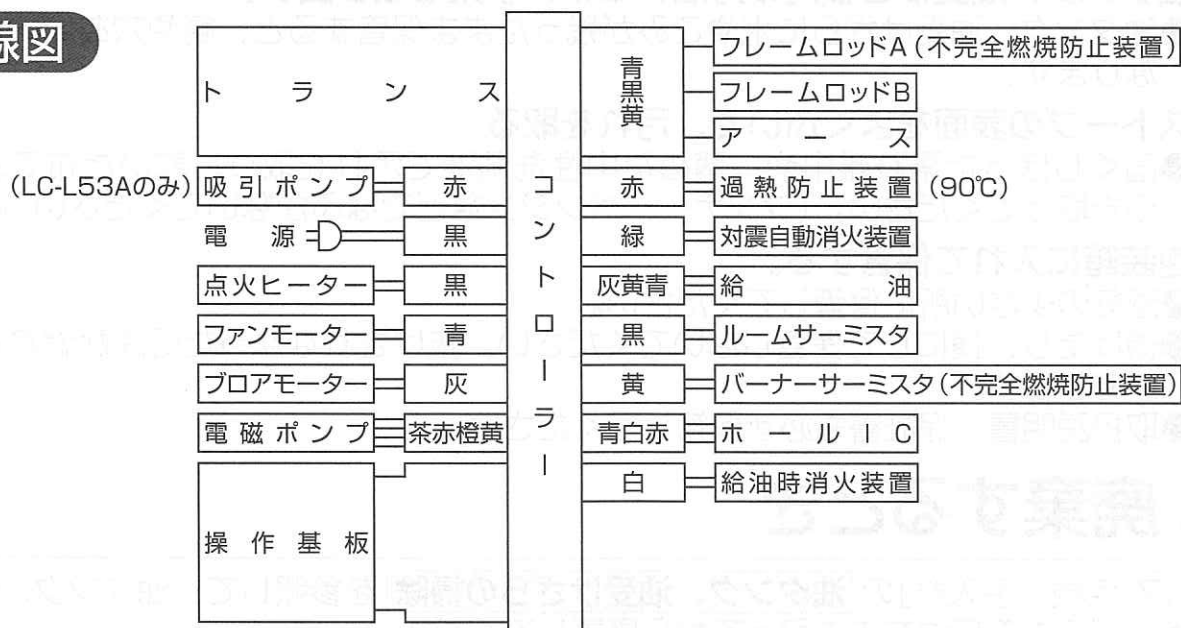
型式の呼び		LC-L36A	LC-L43A	LC-L53A
種類		ポット式・強制通気形・強制対流形		
点火方式		電気点火		
使用燃料		灯油(JIS1号)		
燃料消費量	最大	3.60kW(0.350L/h)	4.25kW(0.413L/h)	5.25kW(0.510L/h)
	最小	1.02kW(0.099L/h)	1.02kW(0.099L/h)	1.41kW(0.137L/h)
暖房出力	最大	3.60kW	4.25kW	5.25kW
	最小	1.02kW	1.02kW	1.41kW
油タンク容量		7.0L		
燃焼継続時間		20.0時間(最大燃焼時)	16.9時間(最大燃焼時)	13.7時間(最大燃焼時)
外形寸法		高さ437mm 幅435mm 奥行315mm (置台を含む)		高さ445mm 幅550mm 奥行327.5mm (置台を含む)
質量		11.0kg		12.7kg
電源電圧及び周波数		100V・50/60Hz		
定格消費電力		点火時320/320W　待機時0.8/0.7W 最大950/950W(点火初期に短時間発生)		
		燃焼時21/20W	燃焼時22/20W	燃焼時25/23W
騒音値(正面)※		最大燃焼時37dB 最小燃焼時23dB	最大燃焼時38dB 最小燃焼時23dB	最大燃焼時38dB 最小燃焼時24dB
電流ヒューズ		4A		
安全装置		対震自動消火装置、点火安全装置、燃焼制御装置、過熱防止装置(90℃)、停電安全装置、不完全燃焼防止装置(フレームロッドA,バーナーサーミスタ方式)、消し忘れ消火装置、気密油タンクの給油時消火装置		

※騒音値の数値はJIS測定方法(JIS S 3031)に基づく正面値です。

配線図

コントローラー

- トランス
- (LC-L53Aのみ)吸引ポンプ — 赤
- 電源 — 黒
- 点火ヒーター — 黒
- ファンモーター — 青
- ブロアモーター — 灰
- 電磁ポンプ — 茶赤橙黄
- 操作基板

- 青黒黄 — フレームロッドA(不完全燃焼防止装置)、フレームロッドB、アース
- 赤 — 過熱防止装置(90℃)
- 緑 — 対震自動消火装置
- 灰黄青 — 給油
- 黒 — ルームサーミスタ
- 黄 — バーナーサーミスタ(不完全燃焼防止装置)
- 青白赤 — ホールIC
- 白 — 給油時消火装置

14 アフターサービス

保証について

●添付しております保証書は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容をご確認のうえ大切に保管してください。

●保証期間はお買い求めの日より3年間です。

修理を依頼するとき

●「9 故障・異常の見分けかたと処置方法」に従って、処置をおこなってください。直らないときは、使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

●ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
①品名…石油ファンヒーター(強制通気形開放式石油ストーブ)
②型式の呼び…(例) LC-L36A
③お買い求め年月日
④故障の状況(できるだけ具体的に)
⑤おなまえ・おところ・電話番号

●修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。

●保証期間が過ぎていても、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

●修理料金は、技術料、部品代、出張料などで構成されています。

この取扱説明書とストーブに表示されている禁止事項・注意事項及び通常使用に反して使用された場合の故障、事故は保証いたしません。

補修用性能部品について

●石油ファンヒーターの補修用性能部品の保有期間は製造打切り後6年です。

●補修用性能部品とは、ストーブの機能を維持するために必要な部品です。

消耗・劣化する部品

●**使用期間により、交換・メンテナンスが必要な部品…**
送油ノズルパッキン、点火ヒーターパッキン、クロスマット、燃焼リング、フレームロッド、給油口口金、油受け

●**変質灯油、不純灯油の使用で劣化しやすい部品…電磁ポンプ、クロスマット**

転居される場合

- 本機は電源周波数50、60Hzとも同一仕様です。
- 電源周波数の異なった地域への転居でもそのままお使いいただけますが、高地への転居、高地からの転居は再調整が必要ですのでお近くの お客様相談窓口一覧 (別紙参照)までご相談ください。

⚠注意 故障・破損したら使用しないでください。不完全な修理や改造は、危険です。

⚠注意 修理、引越しなどでストーブを運搬されるときは、必ず油タンク、油受けざらの灯油を抜いてください。運搬の途中に灯油がこぼれ、周囲を汚すおそれがあります。

故障・修理の際の連絡先

アフターサービスについてご不明な点は、お買い求めの販売店、または、お客様相談窓口一覧 (別紙参照)までお問い合わせください。

愛情点検 ●長年ご使用の石油ファンヒーターの点検を!

●石油ファンヒーターの補修用性能部品の保有期間は、製造打切り後6年です。

ご使用の際このようなことはありませんか	●油漏れする。 ●燃焼中強いにおいがする。 ●炎が異常に黄色い。 ●予熱時間が異常に長い。 ●運転中異常な音がする。 ●その他の異常・故障がある。

ご使用中止	故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検・修理をご依頼ください。

お客様へ…おぼえのために記入されると便利です。

型　式		お買い求め年月日	年　月　日
お買い求め店名	(電話番号) (　) −		

株式会社トヨトミ

ホームページ http://www.toyotomi.jp

本　社 〒467-0855
名古屋市瑞穂区桃園町5番17号
フリーコール 0120-104-154
TEL 〈052〉822-1144
FAX 〈052〉822-2742